

第2回旧陸軍歩兵第44連隊跡地保存活用検討委員会

配 付 資 料

資料1 高知県の考え方

資料2 弾薬庫及び講堂保存に係る基本方針（案）

資料3 具体的な修理方法（案）

資料4 資料の展示・保管について

[別紙1] 登録有形文化財（建造物）

[別紙2] 耐震補強までの流れ

[別紙3] 弾薬庫及び講堂に遺存する構造と意匠

[別紙4] 旧陸軍歩兵第44連隊跡地 建物配置図

[別紙5] 展示物について

[別紙6] 旧陸軍歩兵第44連隊関係者インタビュー概要

高知県の考え方

- (1) 先の大戦からすでに 73 年が経過し、戦争体験者の高齢化や減少により、記憶の風化が憂慮される現状において、戦争のあった時代である近代から昭和の歴史を後世に引き継ぐことは大変重要なことである。
- (2) 旧国立印刷局高知出張所跡地は、明治 30 年から郷土部隊である旧陸軍歩兵第 4 連隊が兵営として利用した場所の一部で、その後、昭和 20 年までの間に、県内の多くの若者がこの地から出征していった歴史的に重要な場所であり、当該地の歴史を後代に継承することには意義がある。
- (3) 高知県が設置されてから令和 3 年で 150 年を迎えることを契機に、現在新たな『高知県史』の編纂に向けた検討を始めており、この新たな県史の編さん過程を通じて、本県の近現代史の資料収集が活発に行われていくものと考えている。将来において、近代から昭和の歴史をきざむ資料館のような施設整備について検討することとなった際には、この場所が最も有力な適地である。
- (4) 当該跡地は、戦争を知らない県民にとって、その史実を知るために大変重要な場所であり、当地を後代に継承することには意義がある。また、将来において県民の気運が高まり、施設の整備を考える際には、最も有力な適地であることから、県が購入することを前提に検討を進めていく。

弾薬庫及び講堂保存に係る基本方針（案）

1. 目的

旧陸軍歩兵第44連隊跡地は、戦争を知らない県民が大半を占めるようになった現在、高知県の近代から昭和の歴史を正しく次世代に伝えていくために、将来における新たな施設の整備を考える際には、適地と考えられ、遺存する弾薬庫及び講堂は、象徴的な建造物となる。

しかし、近代から昭和の歴史をきざむ資料館のような施設整備は将来的な構想であり、当面は44連隊関連資料や当時の時代背景を主題とした施設整備を行うこととし、遺存する弾薬庫と講堂の保存対策を講じる。

2. 弾薬庫と講堂の特徴

弾薬庫は、基礎と軸部のレンガ組積造と小屋組のトラス構造が洋風形式、床組・内壁・天井が和風形式である。講堂は、基礎のレンガ組積造と小屋組のトラス構造が洋風形式、内壁が和風形式である。

このように、遺存する弾薬庫と講堂は伝統的な和風構造形式に、洋風構造形式を取り込んだ明治期の近代和風建造物であることから、特徴を活かした修理・改装を行う。

3. 具体的な基本方針

旧陸軍歩兵第44連隊跡地に遺存する弾薬庫及び講堂の保存における対策とその範囲について、基本方針を以下のとおりとする。

(1) 文化財的価値の維持 [別紙1]

弾薬庫及び講堂は、高知県文化財保護審議会から国登録有形文化財に相当するとの評価があったことから、国の登録有形文化財に登録のうえ、保存を図る。

(2) 保存修理に伴う耐震補強 [別紙2]

弾薬庫及び講堂は、ともに一般公開を前提として、必要な耐震性能の設定を行ったうえで、耐震診断を行い、耐震補強を行う。

(3) 保存修理を行う時期の設定 [別紙3]

弾薬庫及び講堂は、ともに建築当初から改変されている部分があり、確認できる範囲で復原時期を設定し、保存対策を講じる。

具体的な修理方法（案）

1. 【弾薬庫】

	①文化財 指 定	②耐震性能	③時期	④活用		⑤保存修理 概算費用
				公開	概算 費用	
A 案	登録有形 文化財	安全確保水準	確認できる範囲 で推定復原	内外観	工事費 に反映	116,233 (千円)
B 案		復旧可能水準	現状維持	外観		
資料	別紙 1	別紙 2	別紙 3	資料 4		

《A 案》

- ①国登録有形文化財とする。
- ②必要耐震性能は、見学者の安全確保水準に設定し内部を公開する。そのため、見学者に対応できるように床板を補強し、室内の照明器具や説明板により、弾薬庫の特徴を説明する。
- ③内観、外観とも、構造と意匠が残存している箇所は、価値を損なわないよう修復を行う。改変を受けている箇所は、資料により確認できる範囲で復原を目指す。資料がない部分については、他県に残る同様の陸軍施設を参考にする。
- ④南室内壁のレンガ積み構造、中室の建具に残る英語表記や、真鍮扉にみられる歴史的建造物のもつ価値を感じてもらう。
- ⑤設計：20,108（千円）、工事：96,125（千円）

《B 案》

- ①国登録有形文化財とする。
- ②必要耐震性能を復旧可能水準に設定し、室内は立入禁止としたうえで、一般公開せず、外部から見学をする。
- ③外観のみ、構造と意匠が残存している箇所の修復を行う。改変を受けている箇所は、現状維持又は耐久性や耐震性の向上を目的とした補修を行う。
- ④室外からライトアップし室内の様子を公開する。室内の細部や特徴については、写真パネルを館外に設置し説明する。

2. 【講堂】

	①文化財 指 定	②耐震性能	③復原時期	④活用			⑤保存修理 概算費用
				公開	展示	概算費用	
A 案	登録有形 文化財	安全確保水準	確認できる範 囲で推定復原	内外 観	講堂	33,700 (千円)	174,527 (千円)
B 案		復旧可能水準	現状維持	外観	旧倉庫	34,800 (千円)	
資料	別紙 1	別紙 2	別紙 3	資料 4			

《A 案》

- ①国登録有形文化財とする。
- ②必要耐震性能を安全確保水準に設定し、内部の公開と展示棟として修理改装する。コンクリート床を床板に戻す。
- ③内観、外観とも、構造と意匠が残存している箇所は、価値を損なわないよう修復を行う。改変を受けている箇所は、資料により確認できる範囲で復原を目指す。資料がない部分については、他県に残る同様の陸軍施設を参考にする。
- ④資料 4 の展示レイアウト A 案
- ⑤設計：17,215（千円）、工事：157,312（千円）

《B 案》

- ①国登録有形文化財とする。
- ②必要耐震性能を復旧可能水準に設定し、室内へは立入禁止としたうえで、一般公開せず、外部から見学する。
- ③外観のみ、構造と意匠が残存している箇所の修復を行う。改変を受けている箇所は、現状維持又は耐久性や耐震性の向上を目的とした補修を行う。なお、入口シャッター部については「歩兵第四十四連隊講堂平面図」をもとに木製引違い戸に復原する。
- ④資料 4 の展示レイアウト B 案
室外からライトアップし室内の様子を公開する。室内の細部や特徴については、写真パネルを倉庫に設置する。

資料の展示・保管について

1. 活用について

- ・ 建造物の構造上、厳密な温湿度管理は不可能であり、劣化が想定される資料は展示しない。
- ・ 保管は、常温常湿で収蔵できる資料のみとし、温湿度管理の必要な資料は、高知県立歴史民俗資料館での保管を検討してもらう。
- ・ 展示ケースは気密性の低いノンエアタイトケースとし、温湿度管理の必要な資料は、写真パネルやレプリカでの展示を行う。
- ・ 平面パネルは、現在の朝倉地域を撮影した航空写真の上に、旧陸軍歩兵第44連隊兵営及び周辺の関連施設を配置する。
- ・ 学習室には、イス・机・スクリーンを配置し、学生及び一般の方々向けの講座で使用する。

※ A案で講堂を活用する場合、東西にある窓には、退色の原因となる紫外線を防ぐために遮光カーテンを設置する。

2. 展示内容について

- ・ 展示内容については、「旧陸軍歩兵第44連隊に関する資料や当時の時代背景がわかる資料展示」を基本とする。

A：近代日本の誕生（江戸から明治）

- ・ 概説
- ・ 富国強兵：西洋文明の積極的導入と経済及び軍制の改革（徴兵令）
- ・ 明治の対外戦争：日清・日露戦争と44連隊の誕生

B：近代日本における政治・文化の成熟（大正から昭和）

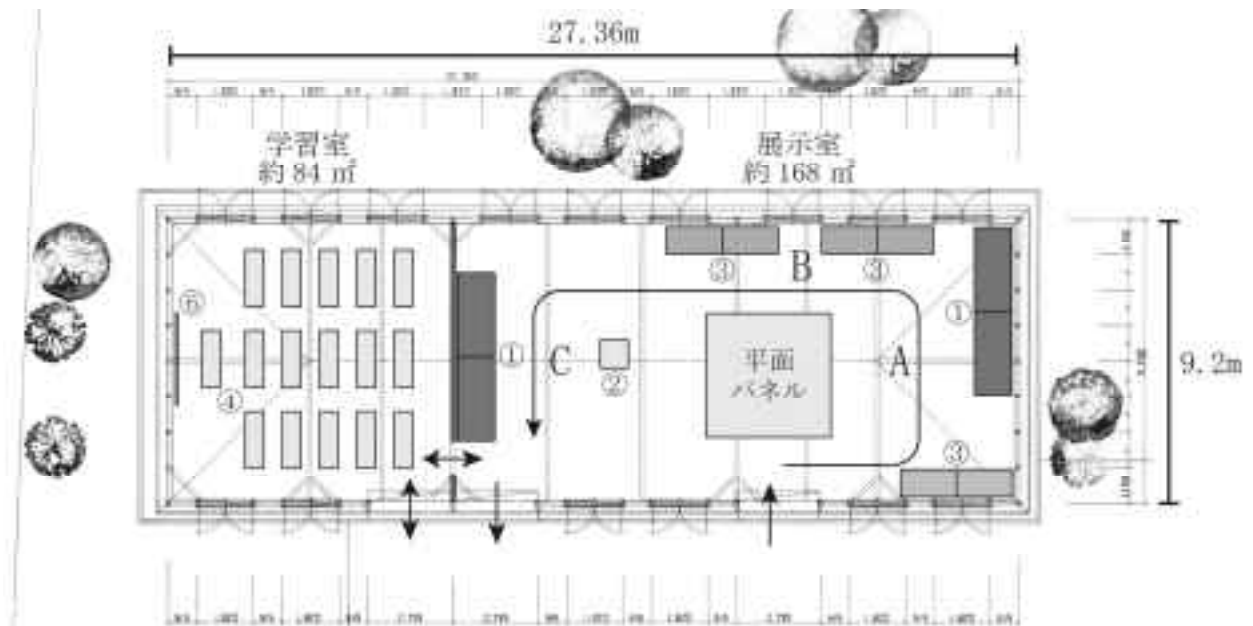
- ・ 概説
- ・ 大正デモクラシー：政党政治の確立と軍縮
- ・ 大正の対外戦争：シベリア出兵と44連隊

C：近代日本の終結（昭和）

- ・ 概説
- ・ 政党政治の終焉と軍部の台頭
- ・ 昭和の対外戦争：度重なる戦争と44連隊、県内の戦争遺跡
- ・ 戦時下の高知

3. 展示レイアウト

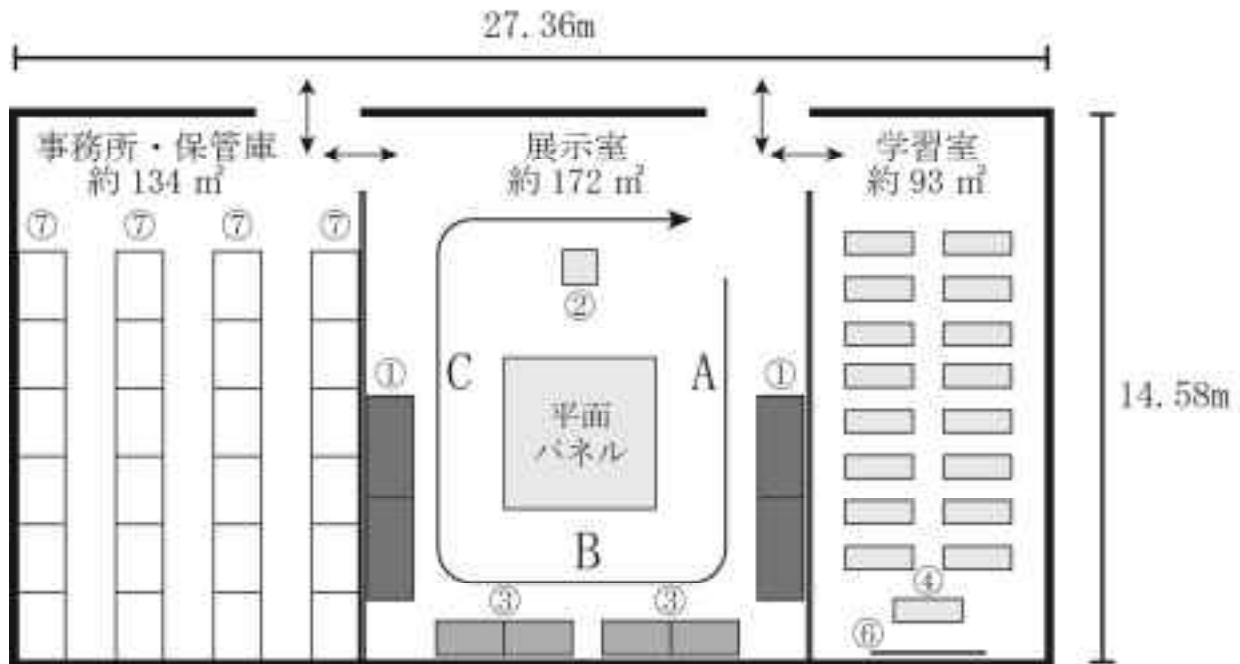
(1) A 案 (講堂活用)



【概算費用】

品目	品名	規格	数	単価	小計	
備品	①	三面ガラスハイケース	2700W×1200D×2700H	4	2,921,000	11,684,000
	②	行灯型五面ガラスケース	900W×900D×2100H	1	1,509,000	1,509,000
	③	平面型覗きガラスケース	1800W×900D×900H	6	1,539,000	9,234,000
	④	会議用テーブル	1800W×600D×700H	16	55,400	886,400
	⑤	折りたたみイス		50	25,500	1,275,000
	⑥	天吊りスクリーン 120 吋		1	90,000	90,000
		平面パネル	4000W×4000D×100H	1	3,630,000	3,630,000
小計						28,308,400
その他一式 (備品小計×10%)						2,830,840
合計						31,139,240
消費税 (8%)						2,491,140
総計						33,630,380

(2) B案 (倉庫活用)



【概算費用】

品目	品名	規格	数	単価	小計	
備品	①	三面ガラスハイケース	2700W×1200D×2700H	4	2,921,000	11,684,000
	②	行灯型五面ガラスケース	900W×900D×2100H	1	1,509,000	1,509,000
	③	平面型覗きガラスケース	1800W×900D×900H	4	1,539,000	6,156,000
	④	会議用テーブル	1800W×600D×700H	17	55,400	941,800
	⑤	折りたたみイス		60	25,500	1,530,000
	⑥	天吊りスクリーン 120吋		1	90,000	90,000
	⑦	スチール製支柱棚	1800W×1250D×2400H	24	154,920	3,718,080
		平面パネル	4000W×4000D×100H	1	3,630,000	3,630,000
小計					29,258,880	
その他一式 (備品小計×10%)					2,925,888	
合計					32,184,768	
消費税 (8%)					2,574,782	
総計					34,759,550	

登録有形文化財(建造物)

1. 登録の基準

原則として建設後50年を経過したもののうち、

- (1) 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- (2) 造形の規範となっているもの
- (3) 再現することが容易でないもの

※平成29年度高知県文化財保護審議会の答申

弾薬庫、講堂ともに建築時期が明治30年代前半と建築後50年を経過しており、遺存する数少ないレンガ構造の建造物であり、基準の「(1) 国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当すると考えられることから、国登録有形文化財に相当する。

2. 修理等に対する国補助事業

(1) 登録有形文化財建造物修理補助事業

保存・活用に必要な修理等の設計監理費の2分の1を補助。

(2) 登録有形文化財建造物を活用した地域活性化事業

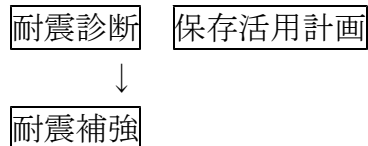
登録有形文化財建造物を公開活用して、地域活性化を促進するために、保存活用計画の策定や設備整備、耐震対策を行う場合、その事業費の2分の1を補助。

耐震補強までの流れ

『重要文化財（建造物）耐震診断・耐震補強の手引（改訂版）』

文化庁文化財部参事官 より抜粋

1. 耐震補強までの流れ



※保存活用計画 と 耐震診断 は連携して実施することが望ましい

・保存活用計画

文化財建造物を価値あるものとして後世に伝えるために、文化財の価値を保存しつつ適切に活用する計画を策定し、計画された保存管理計画のもとに計画的に修理を行っていく。

2. 耐震診断

（1）必要耐震性能の設定

活用状況や文化財的価値に応じて耐震性能の目標値を設定する。

①機能維持水準

→防災拠点となる官公庁施設や避難施設、橋やダムなどのインフラ施設など、その建造物の機能が失われると社会に大きな影響を与えるものなどが該当する。

②安全確保水準

→大地震時に建造物によって人的被害を出さない水準。内部を公開している建造物ではほとんどの水準が選択される。

③復旧可能水準

→大地震時に倒壊の危険性があるが文化財として復旧できる水準。小規模で倒壊しても人的被害が出ない。

（2）構造調査・・・耐震性能を検討するために必要な情報を得る目的で行われる。

- ・現地確認／史料調査→調査の前に地盤や建造物に関する情報の収集。
- ・地盤調査→建造物を支える地盤の正常を把握する
- ・破損調査→建造物の破損状況を把握する。
- ・形状／仕様調査→構造的特徴について行う調査。
- ・物性調査→耐震要素の力学特性等の物性に関する調査。

(3) 耐震性の判定

例えば、安全確保水準が求められる建造物について、構造解析によって大地震時に倒壊する可能性があれば、耐震性を満たしていない判定になる。また、局所的な破壊や非構造物の落下等が発生する危険性があり、被害が人命に危害を与えるものであれば、やはり耐震性を満足していない判定となる。

一方で、復旧可能水準の建造物が、大地震時に倒壊する危険性がわかったとしても、推定される被害内容と文化財的価値及び活用方法を照らし合わせた結果、修理によって文化財的価値が復旧可能で、かつ人命に危害を与える危険性がないと判断できれば、耐震性を満たしているという判断になる。

3. 耐震補強

耐震診断の結果、必要耐震性能に比べ耐震性能が不足していることが明らかとなった場合、耐震補強を検討する。

耐震補強は、文化財の保存に必要な措置の一つであり、文化財としての価値を損なわないよう、下の原則に配慮する必要がある。

○意匠を損なわない

- ・可能な限り見えない位置で行う。
- ・見える位置に補強する場合は、違和感が生じないように配慮する。
- ・できるだけ文化財的価値に与える影響が少ないデザインとする。

○部材を痛めない

- ・構成する部材は、それ自体が文化財的価値を有する物的証拠品であり、できるだけそのままの状態の後世に伝えていく。

○可逆的であること

- ・将来にはもっと良い補強方法が開発される可能性があり可逆的な方法で、実施する。

○区別可能であること

- ・補強部材等の付加物はもともとある部材と誤解されることがないように、区別可能なものとする。

○最小限の補強であること

- ・文化財的価値に与える影響をできるだけ小さくする。

《構造特性に応じた考え方》

- 建造物の構造特性を理解し、構造特性に応じた補強方法を選択する。

弾薬庫及び講堂に遺存する構造と意匠

『旧陸軍歩兵第 4 連隊弾薬庫等調査報告書』

高知市教育委員会 2016 より

1. 遺存する構造と意匠

(1) 弾薬庫 (別紙 3-1)

①主体部

建築当初の構造及び意匠が残存している箇所は、基礎 (1)、床組 (2)、軸部 (3)、小屋組 (4)、内壁 (7)、天井 (8)、間仕切壁 (9)、開口部 (10)、出入り口 (11) である。

屋根 (5) は、当初から棧瓦葺であったと考えられるが、昭和 50 年代に全ての垂木、野地板、棧瓦と、一部の桁、鼻母屋を取り替えたと推定されている。外壁 (6) は現在ペンキ塗仕上げとなっているが、本来の塗装は不明である。

②下屋 (東側庇)

建築当初の構造が残存している箇所は、基礎 (1) と軸部 (3) であり、床組 (2) と内壁 (7) は、記載がなく不明である。

また、屋根 (5) は昭和期にセメント瓦に改修されたと推定されており、外壁 (6) は記載がなく、改修年代は不明である。

なお、建築当初の図面と考えられている歩兵第四十四連隊 (第一号) 弾薬庫平面図 (高知大学附属図書館蔵) より、前室の間仕切壁 (9) の存在や、出入り口 (11) には両引戸、階段 (12) は木製であったことが推測される。現在、間仕切壁は撤去され、出入り口は木製片引き建具、階段はコンクリート製となっているが、改修年代は不明である。

(2) 講堂 (別紙 3-2)

建築当初の構造及び意匠が残存している箇所は、基礎 (1)、軸部 (3)、小屋組 (4)、外壁 (6)、内壁 (7) であるが、外壁の塗装はペンキ塗仕上げとなっており、改修年代は不明である。

床組 (2)、天井 (8)、間仕切壁 (9) は、旧国立印刷局時代に改修されたと考えられており、本来は床組が木造床組、天井は棹縁天井、間仕切壁は板壁であったことが、歩兵第四十四連隊講堂平面図 (高知大学附属図書館蔵) 及び遺存する部材の痕跡から推測される。

また、開口部 (10) は内側が引違ガラス戸、外側が外開き板戸となっているが、写真から引違腰板ガラス戸のみであったと考えられる。出入り口 (11) はシャッターに改装されているが、歩兵第四十四連隊講堂平面図から掃き出し形式の木製引違ガラス戸であったと推測される。

別紙3-1 遺存する構造と意匠一覧表-弾薬庫

		弾薬庫					
		主体部			下屋(東側庇)		
		現状	時代	推定される明治30年代の姿	現状	時代	推定される明治30年代の姿
1	基礎	レンガ組積造	明治30年代	—	レンガ組積造	明治30年代	—
2	床組	木造床組	明治30年代	—	木造床組	記載なし	記載なし
3	軸部	レンガ組積造	明治30年代	—	袖壁:レンガ組積造	明治30年代	—
4	小屋組	洋風トラス (真束小屋組)	明治30年代	—	該当なし	該当無し	該当無し
5	屋根	棧瓦葺	昭和50年代に改修と推定 (垂木・野地板・棧瓦すべて、 桁・鼻母屋の一部を取替) ※棧瓦葺が鎗瓦、軒丸瓦の 瓦当部分が模様が無いもの になっているため	棧瓦葺	セメント瓦葺	昭和期に改修か	棧瓦葺か
6	外壁	レンガ壁モルタル仕上 ペンキ塗仕上	ペンキ塗は近年	塗装の仕様は 不明	縦羽目板張り	改修年代は不明	記載なし
7	内壁	縦羽目板張り	明治30年代	—	縦羽目板張り	記載なし	記載なし
8	天井	杉板張り(本実矧ぎ)	明治30年代	—	該当無し	該当無し	該当無し
9	間仕切壁	レンガ組積造	明治30年代	—	前室の木製間仕切壁 は撤去されている	記載なし	板壁か (図2より)
10	開口部 (窓)	内:ガラス上げ下げ窓 外:鋼製片開き戸	明治30年代か	—	該当無し	該当無し	該当無し
11	出入り口	内:木製腰高ガラス上 吊り両引き戸 外:ブリキ製両開き戸	明治30年代か	—	木製片引き建具(縦羽 目板)	改修年代は不明	両引戸か (図2より)
12	その他				階段:コンクリート製	改修年代は不明	木製階段か (図2より)

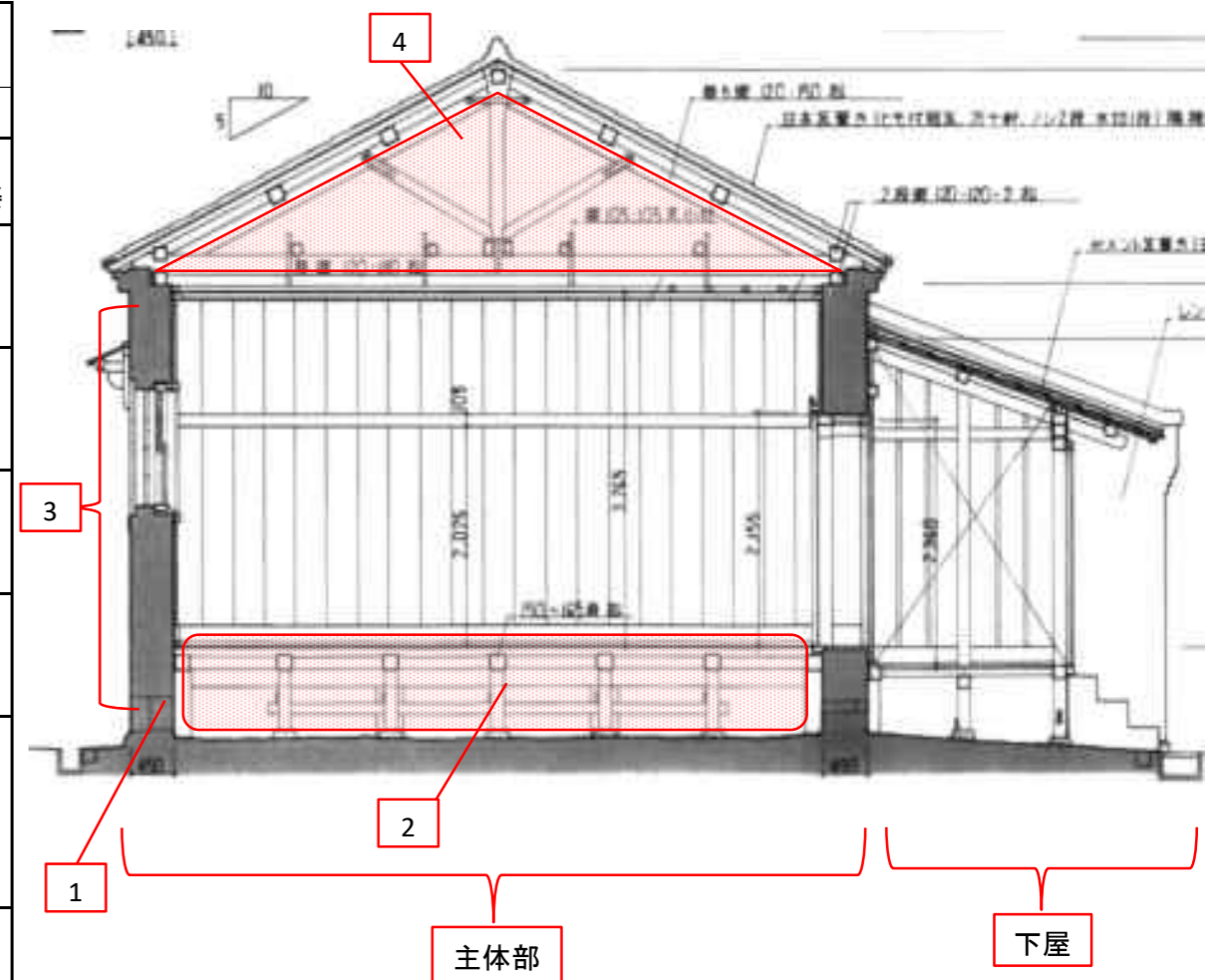


図1.弾薬庫断面図

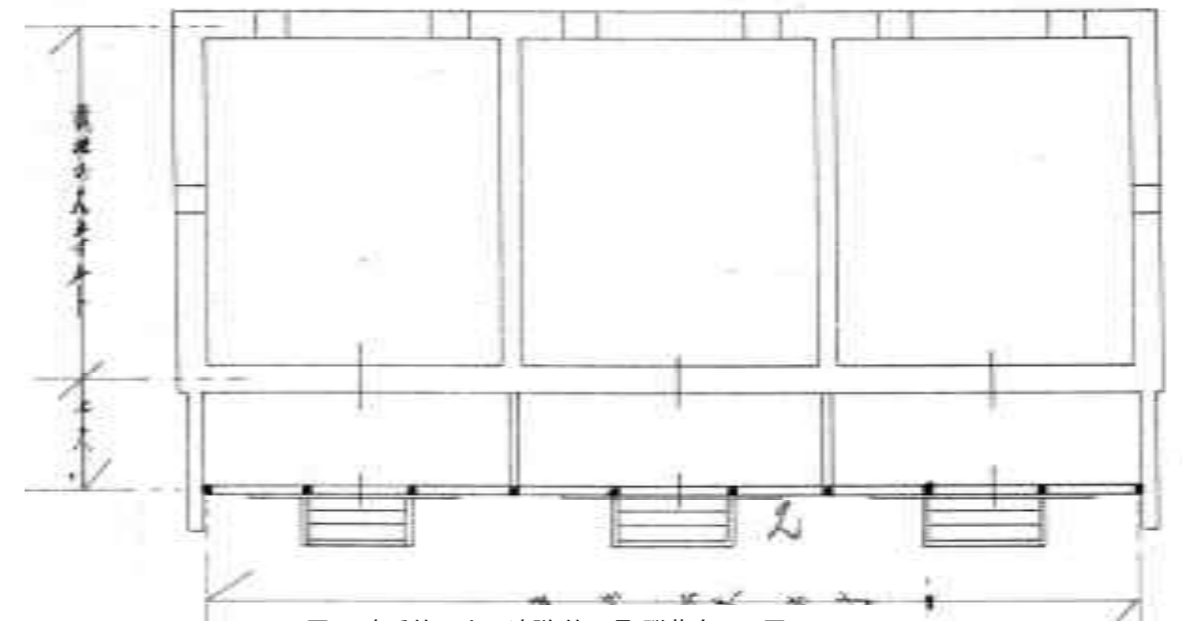


図2. 歩兵第四十四連隊(第一号)弾薬庫平面図
(高知大学附属図書館蔵)※建築当初の図面と考えられる

『旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査報告書』高知市教育委員会、2016年 による

別紙3-2 遺存する構造と意匠一覧表-講堂

		講堂		
		現状	時代	推定される明治30年代の姿
1	基礎	レンガ組積造	明治30年代	—
2	床組	撤去されている	旧国立印刷局時代に改修と推定	木造床組
3	軸部	木造軸組	明治30年代	—
4	小屋組	洋風トラス (真束小屋組)	明治30年代	—
5	屋根	鉄板瓦棒葺	旧国立印刷局時代に改修と推定(垂木・野地板・棧瓦を取替)	棧瓦葺
6	外壁	南京下見板張り ペンキ塗仕上	明治30年代か ※塗装は不明	塗装は不明
7	内壁	縦羽目板張り	明治30年代	—
8	天井	撤去されている	旧国立印刷局時代に改修と推定	棹縁天井 (天井部分の廻縁の痕跡より)
9	間仕切壁	撤去されている	旧国立印刷局時代に改修と推定	3室に間仕切り、板壁仕上か(トラス下部のほぞ穴痕跡および図4より)
10	開口部(窓)	内:引違ガラス戸 外:外開き板戸	不明	引違腰板ガラス戸のみ 外開き板戸は無し (写真より)
11	出入り口	シャッター(3カ所)	旧国立印刷局時代に改修と推定	掃き出し形式の木製引違戸か(図4より)

『旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査報告書』高知市教育委員会、2016年 による

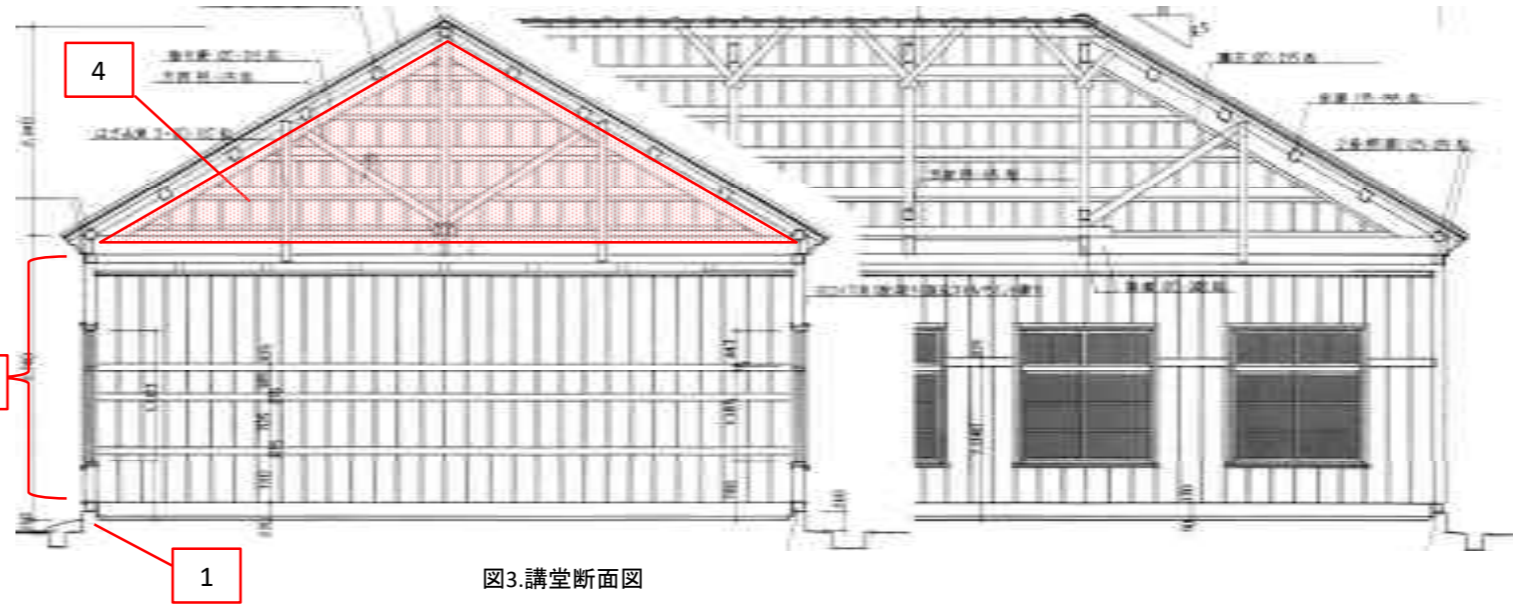


図3.講堂断面図

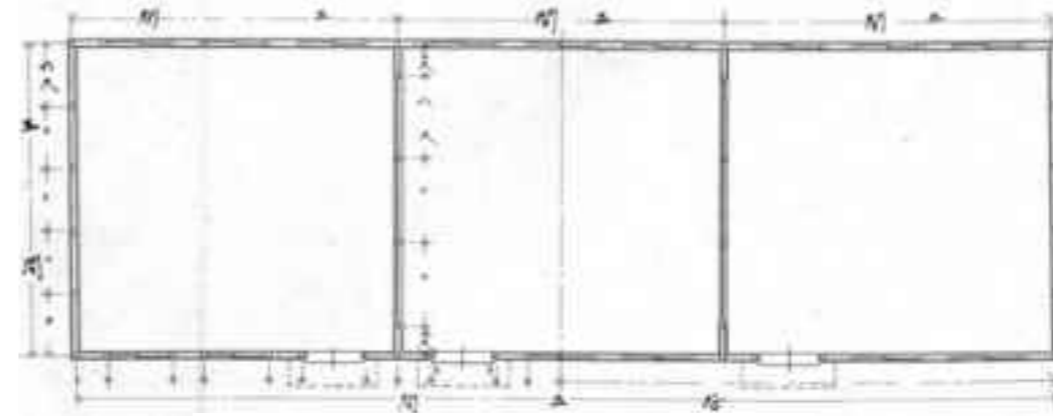
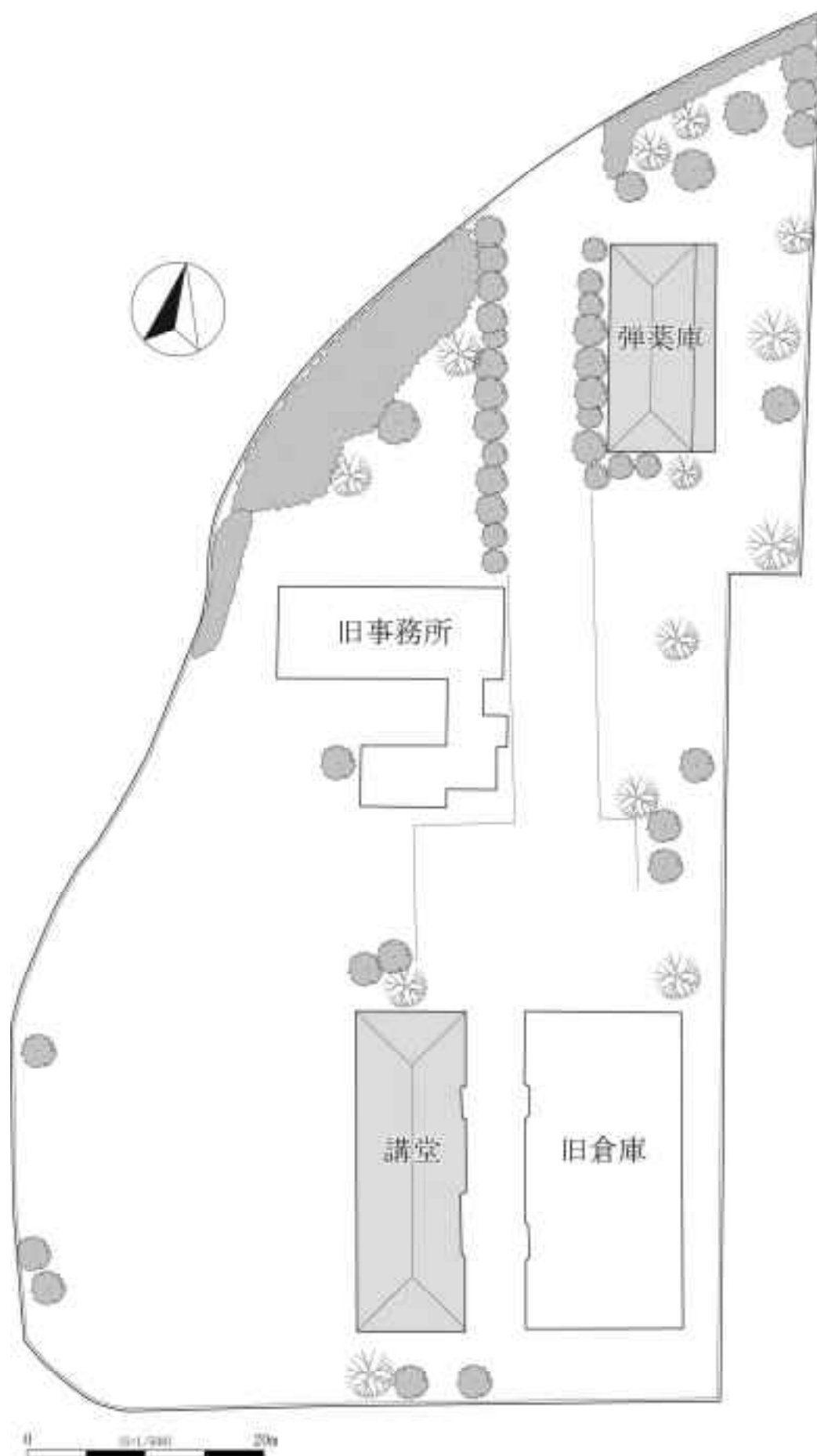


図4. 歩兵第四十四連隊講堂平面図
(高知大学附属図書館蔵)※建築当初の図面と考えられる



写真。「歩兵第四十四連隊 銃剣術」文葉堂発行
(高知大学附属図書館蔵)



旧陸軍歩兵第4連隊跡地 建物配置図

展示物について

展示物については、高知県立歴史民俗資料館・高知県遺族会・オーテピア高知図書館・高知市立自由民権記念館・高知大学に、下記の内容に関する展示物収集について協力を依頼する。

記

- 戦時下の高知に関する物
- 旧陸軍歩兵第44連隊に関する物

【展示例】

- ・『歩兵第四四連隊歴史』（高知県立歴史民俗資料館 蔵）のレプリカ
- ・44連隊施設に関する図面
- ・写真(連隊施設等の風景)
- ・土陽新聞
- ・善行證書・賞状・感謝状
- ・日記帳
- ・軍隊手牒
- ・新聞切り抜き
- ・手紙・書簡
- ・絵葉書
- ・食器(茶碗、皿、盃)
- ・印鑑 等

旧陸軍歩兵第44連隊関係者インタビュー概要

1 目的

第1回旧陸軍歩兵第44連隊跡地保存活用検討委員会において、委員から「物だけでなく、急ぎ、連隊関係者や家族の持つ記憶を記録して残すことが大切。」との提言がなされた。

戦後74年を経て、人々の記憶が徐々に失われつつあり、体験や記憶を次の時代に受け継ぐことが喫緊課題となっていることから、関係者へのインタビューを行い、貴重な証言をまとめ、将来の活用に備える。

2 対象者

下記のいずれかの条件に当てはまる方を対象とし、10名程度の証言を収集する。

- (1) 旧陸軍歩兵第44連隊兵営で兵役に就かれた方
- (2) 旧陸軍歩兵第44連隊が活動していた時期や終戦後（占領下）の兵営の様子を知る方
- (3) 旧陸軍歩兵第44連隊兵営で兵役に就かれた方のご家族で兵営の様子を知る方

3 内容

(1) インタビュー項目

質問項目	前項(1)の方	前項(2)の方	前項(3)の方
①氏名	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
②入営された方の氏名			<input type="radio"/>
③生年月日	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
④出身地	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
⑤当時居住されていた場所 (住所)		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑥兵役期間	<input type="radio"/>		
⑦入営及び退営(除隊)年月日	<input type="radio"/>		
⑧所属部隊名	<input type="radio"/>		
⑨兵営での記憶	<input type="radio"/>		
⑩兵営の記憶		<input type="radio"/>	
⑪兵営との関係		<input type="radio"/>	
⑫物心ついてから終戦までの 記憶(時代の記憶)	<input type="radio"/>		
⑬弾薬庫、講堂の記憶(できれば イラスト)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(2) 成果物

- ①証言の録音データ(電子音声ファイル WAV、MP3ファイル形式)
- ②証言を文字おこしをしたデータ(電子文書ファイル マイクロソフトワード形式)
- ③証言集(印刷物A4版 100部)及び電子ファイル(マイクロソフトワード互換形式及びPDF)